

アメリカでの体験

国際文化学科 2年 青柳実希

1) はじめに

私は中学生の頃から留学に行きたいと考えていました。英語を話すことが好きで、英語での会話を上達させるためには実際に海外で生活することが一番だと考えていたからです。しかしいざ留学することが決まると、私は留学に関してほとんど知らないのだと気づかされました。大学による準備や手続きは5月ごろからありましたが、これから4か月間アメリカに行くのだという実感が全く湧かずに準備を進めていました。やっと意識するようになったのはビザ取得のための手続きを始めたころです。面接や事前準備など色々なことが忙しくて、パソコンで長時間必要な書類を打ち込んでいた時は途中でやめたいと思うくらいでした。ビザを取得できたのはとても嬉しかったのですが、行く前から苦労しているのにアメリカでやっていけるのか、学校生活は大丈夫なのか、本当に自分の力を伸ばすことができるのかなど全てが不安でいっぱいでした。

2) アメリカ初日

8月26日、飛行機に乗り10時間以上かけてアメリカのミズーリ州にあるカンザスシティに到着しました。そこで私たちを **Brenda** という気さくな女性が出迎えてくれました。彼女は私たちをマクドナルドへ連れて行ってきて、そこでアメリカに着いて初めてのご飯を食べました。飲み物の容器を一番小さいサイズにしたのに、自分の手くらいの大きさでアメリカは本当に食べ物のサイズが大きいのだなと思いました。そこから2時間ほどバスに乗って、大学の中にある寮に着く頃には夜中になっていてみんなくたくたでした。今年は例年とは違って寮が2つに分かれてしまい、私たちはそれぞれの寮で生活を始めることになりました。到着するまでルームメイトが誰なのかも知らされていなくて、寮が分かれていることを聞いたときは余計に不安になりました。そのあと寮長さんに寮の中を案内してもらって、寮生活のきまりなどを教わりました。寮長さんは中国人で私たちと同じ留学生でしたが、とても聞き取りやすい英語を話していて、留学生活中いつも私たちのことを気にかけてくれる頼りがいのある人でした。着いたばかりで分からないことがだらけでしたが、この寮長さんのおかげで少し緊張が解けました。

3) 大学での暮らし

大学の名前は **Northwest Missouri State University** といいカンザスシティの隣の **Merryville** という町にありました。周りは牛を飼育している耕地や畑に囲まれているの

どかで落ち着いた場所でした。校内も木や自然が多く、校舎の外を歩いていると毎日リスを見かけました。アメリカの中では小さい大学だそうですが、生徒は6000人以上いて、学科も150以上ありました。この大学にはアメリカ人だけでなくアジアやヨーロッパなどの様々な国と地域から多くの留学生が来ていました。日本人は2人だけでした。廊下を歩くと自分とは異なる文化や人種にルーツを持つ人たちとすれ違い、日本では体験できない状況に新鮮な気分でした。



大学内には食堂である **Union** のほかに4つのお店とスターバックスがあり、ほとんどの場合学内でご飯を食べていました。**Union** はバイキング形式で、ピザやハンバーガー、ブリトーなどがありました。そこでの食事に飽きてしまった時にファーストフードの店を利用していました。特に **PapaJohon's Pizza** のピザは日本で食べるピザの倍くらい大きく、ボリュームもありましたが日本のピザとは比べられないくらい美味しかったです。これらのファーストフードのお店は **Union** とは違い留学費用に組み込まれていないので毎回お金を払わなければいけないのですが、**Meal Exchange** という制度により週1回だけ3つのお店のうち1つを選んで代金を無料にすることができたので、私たちはよくこの制度を利用していました。

学外には中華料理やファーストフードなどの飲食店といくつかの専門店がありましたが、食べ物や水、日用品の買い物には **Wall mart** と **Hy-vee** というスーパーが便利でした。特に **Wall mart** はホームセンターのようで様々な品物があり、日本とは様子が違い見ているだけでも面白かったです。アメリカの店員さんは積極的に話しかけてくるし、早口な人が多いので最初戸惑いましたが馴れるとこちらからも声を掛けたりして楽しかったです。**Wall mart** の近くには日本でいう百円ショップのようなお店もあり、ティッシュや洗剤などが安く買えました。ただどのお店も大学から結構離れたところにあるのが少し不便でした。学校から直通のバスも出ていましたが、時間が不規則なのであまり利用しませんでした。だいたい徒歩か誰かの車に乗せてもらって行きました。歩くと片道20~30分かかりますが重い荷物がなければそこまで大変ではありませんでした。私は一人暮らしをしたことがなかったので分からないこともたくさんありましたが、友達と協力して楽しく生活することができて良かったです。

4) ESL クラス

大学内にはいくつかの校舎があり、語学系の学科の生徒たちが使っている建物の中に私たちの教室がありました。国際情報大学の生徒は英語が母国語ではない人たちのためのクラス (ESL) に一学期だけ在籍することになっていて、私たち日本人以外では中国人や韓国人、サウジアラビア人の生徒がいました。はじめに面接と筆記のテストを受けてから A と B のクラスに分かれて、それぞれのレベルに合わせた授業を受けました。教科は主に Reading ・ Writing ・ Grammar ・ TOEIC の 4 科目で、50 分授業を毎日 3 時くらいまで受けました。アメリカの大学は成績よりも積極的な授業参加を重視するそうで、どの科目でも先生が生徒に質問したり小さなグループで議論したりする機会がたくさんありました。内容は人種差別や犯罪、ジェンダー、メディアなど社会的な問題になっているテーマが多かったです。それ以外にも新聞のレポート、小テストやスピーチ、プレゼンテーションなどをしました。課題の量は教科と先生によりますが、ほぼ毎日出されたのでコツコツ進めた方がいい気がします。課題が終わると寝るのはだいたい 12 時くらいでした。ただ帰国直前になると課題と試験勉強でかなり忙しく、夜中まで勉強したり、朝早く起きてやらないといけないくらい時間が足りませんでした。けれどどれもやりがいがあって、ここでの勉強を終えた時は達成感がありました。ただ怠けてしまったことも少なくないので、時間をもっとうまく使うべきだったなと思います。



ESL クラスを担当する先生は 3 人で、どの先生も個性的で親しみやすい先生でした。分からないことがあると、休み時間や Messenger などでも親身になっていねいに教えてくれました。最初のうちはすべてが英語の授業に全くついていけず、先生やクラスメートが話していることもあまり理解できなくて授業に出るのがとても辛かったです。また

時差ボケもあって、一か月は授業中も眠くてあまり集中できませんでした。けれどしばらくして耳が英語に慣れてくると、自分の意見を述べたりクラスメートの考えを聞いたりすることが面白くなって、授業中に発言することに抵抗がなくなってきました。そのあとは課題も授業ももっと頑張ろうと思えるようになりました。

クラスメートとははじめ近寄りがたい雰囲気がある気がしてあまり話せませんでした。話してみると皆フレンドリーでだんだん仲良くなりました。後で聞くと相手も日本人に対して同じようなことを考えていたのが面白かったです。一緒にイベントに行ったり、ご飯を食べたり部屋で話したりして楽しく過ごせました。またクラス単位で **Field Trip** や学校のイベントに参加することもありました。**Field Trip** とは課外遠足のことで、1回目はオマハにある動物園、2回目はカンザスシティでショッピングモールや美術館へ行きました。自由時間や買い物は時間が足りずに十分に回れませんでした。どれも



楽しかったです。

放課後には、授業の一環として2人組の日本人で週に2回 **conversation partner** というアメリカ人の生徒と話す機会がありました。私のグループのパートナーは、**Destiny** というアフリカ系のアメリカ人の女性でした。彼女はとても優しく私たちを車に乗せて町のスーパーへ連れて行ってくれたり、学校の中を案内してくれたり、アメリカで有名なハロウィンのお菓子をくれたりしました。彼女は物知りでこの大学のことでなく、アメリカの教育制度やアメリカと彼女の両親の母国の文化など様々なことを教えてく

れました。特にハロウィンやキリスト教に関する話は知らないことばかりで興味深かったです。私たちも日本のことや自分たちのことを彼女に話すと、向こうも熱心に聞いてくれて嬉しかったです。また留学期間に **Destiny** と日本人のパートナーの誕生日があったので、プレゼントを作ったり3人で祝ったりしました。



4) アメリカの文化

アメリカ人は賑やかなことが大好きな人が多いようで、大学の中にいるだけでもたくさんのイベントが開催されていました。その中でも一大イベントだったのがフットボールです。アメフトは新学期が始まってすぐにシーズンが開幕し、毎試合大勢のサポーターが試合を見に訪れていました。この大学のフットボール部は **Bearcats** というのですが強豪で、生徒だけでなく町中からサポーターが来ていました。私たちが帰国する直前にあった試合は、チケットが2時間で売り切れるほどの人気ぶりでした。友達と試合を3回ほど見に行きましたが、すべて豪雨だったり日照りだったりマイナスを切る気温だったりして正直試合どころではありませんでした。またルールも分からず一試合が3時間を超える長丁場なので、連れて行ってくれた人には申し訳なかったのですが試合に集中できず途中で帰ってしまいました。そのことをアメリカ人の友達に言うと、アメリカの人は接戦の試合が好きな人が多くて、点差が付きすぎるとみんな途中で帰るから大丈夫だよと言われて驚きました。確かにどんなに熱心なファンでも、**Bearcats** が大差を付けるとハーフタイムや1クォーターで帰っていました。日本では負け試合だと途中で帰る人もいますが、勝っているのにすぐに帰ってしまうのは価値観の違いだなと思いました。このように試合にはあまりいい思い出はないのですが、ハーフタイムや試合中に見られるチアリーダーやマーチングバンドの演技は素晴らしかったです。



大学のイベントでもう一つ心に残っているのが **Halloween** です。アメリカはやっぱり本場なので行く前から期待していました。一ヶ月くらい前から準備が始まり、寮の中や部屋のドアの飾り付けがハロウィン一色になりました。私たちは **Carving** というジャコランタ



ン作りを体験させてもらいました。かぼちゃはハロウィン用のものを栽培しているそうで、大きいものだと車のタイヤくらいになるそうです。かぼちゃはとても固く、中のわたもなかなか取れずに苦労しましたが、できあがりには上手くって良かったです。

当日はESLクラスや何人かの留学生でのパーティーがあり、私はZipper Face という顔にチャックのついたゾンビの格好をしました。会場に行くとみんなそれぞれ凝った仮装をしていて、集合写真は圧巻でした。写真を撮ったり、ゲームをしたりしてみんな盛り上がりました。パーティーのあとにUnionに行った時、たまたま近くにいた人に「Cool!」と言われたのは嬉しかったです。



5) 最後に

今回の留学では、ここで書ききれないくらいの経験と思い出を得ることが出来ました。もちろん全てが楽しいわけではなく、辛いことや悲しいことも少なくありません。けれどどれも実際に留学に行かなければ分からなかったことで、今までアメリカや日本以外の国や人々に対して持っていた間違ったイメージを変えるきっかけになりました。英語を使ってさまざまな人と交流するうちに、自分にはない考え方やものの見方を知ることが出来ました。これからもずっと英語に携わっていきたいと思いました。この4ヶ月は長いようでとても短い間でしたが、自分にとって有意義で充実した期間でした。両親をはじめ色々な人に支えられて参加を決めて本当によかったと思います。また留学に行きたいです。

